

WILLを未来の実装へ： 中条高校の挑戦

教育現場のパラダイムシフト

新潟県立中条高等学校
校長 横堀 正晴

かつての探究 やらされる勉強 (NEED)



企画書止まり

これからの探究 やりたいこと (WILL)



社会を変える実装

「生徒の心に火を灯し、社会に価値を届ける」 変革の物語

転換点：令和7年度「ネクスト・イノベーション」

Old:
大人が課題を
整理・提示



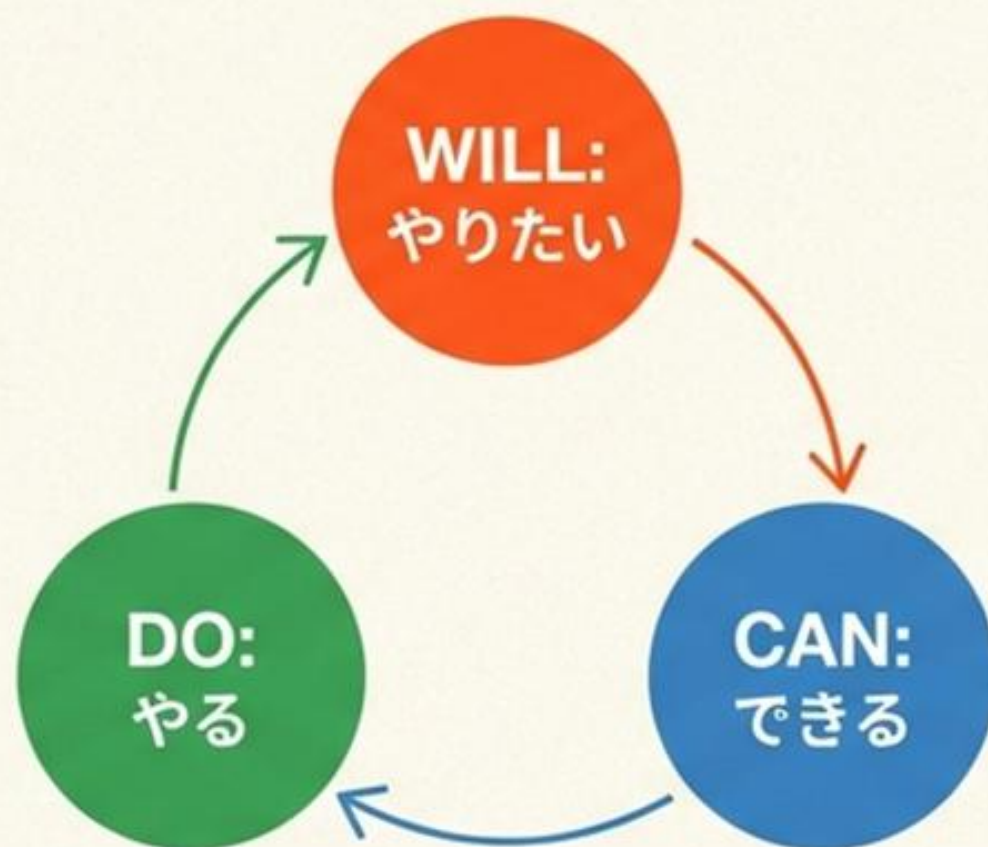
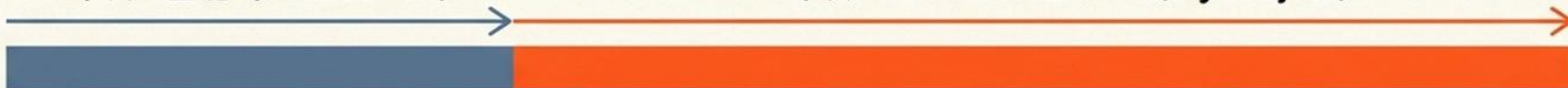
New:
生徒の内なる
「WILL (やりたい)」を
すべての起点にする

「君たちの可能性を信じている。
思う存分やってごらん」

3年間の変革ロードマップ

1年次：基礎 (Foundation)

2・3年次：マイプロジェクト (My Project)



泥臭くも確かな「実践」へのプロセス

武器を授ける 「地域アカデミー」

5つの大学・大学生メンターとの連携

- 大学生による伴走（Mentorship）
- デザイン思考・ファシリテーションの習得（Skill Acquisition）
- 学校をアイデアの「実験場」へ（The Lab）



実践ケース①：行政を動かした「防犯灯プロジェクト」

胎内市電気工事協同組合の強力なバックアップ



- **WILL (Origin):** 「夜道の怖さを解消したい」
- **DO (Action):** 中高生がタッグを結成。警察・行政への働きかけ。
- **RESULT:** 防犯灯の設置を実現。

社会実装の証明

実践ケース②：地域課題 × DX



- **WILL:** 地元のスキー場の課題解決
- **DO:** プログラミングによる予約アプリ開発。自らの手で技術を実装。
- **IMPACT:** テクノロジーによる価値創造

教室を飛び越える「外部からの刺激」



- 新潟県出身ラッパーUSU氏など、プロフェッショナルとの連携
- 学校の中だけでは得られない「本気」の熱量に触れる
- 開かれた学びの場

実践しないこと以外、 すべて成功

自らのWILL（意思）を、磨いたCAN（武器）で形にし、実行（DO）する。

地域をフィールドに、大学生メンターが伴走する
中条高校未来探究。

この挑戦が中条高校のアントレプレナーシップ

生徒の変容

～「WILL」から生まれた自信～

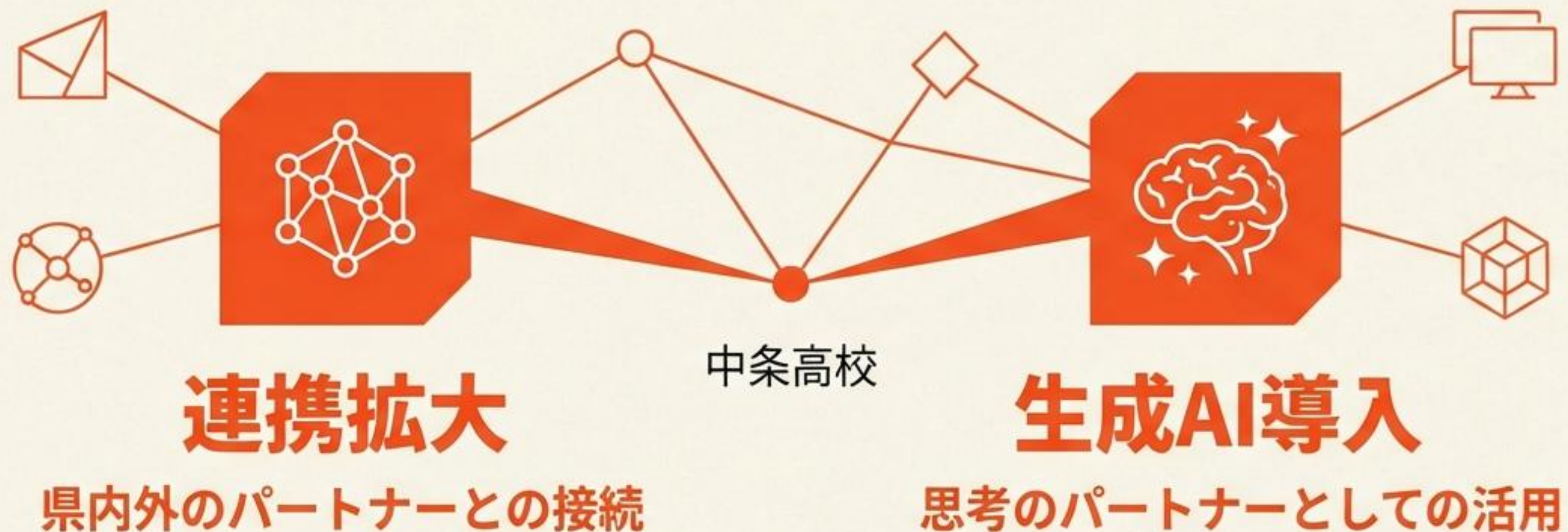


- ・ 地域・大学生・大人たちとの真剣な関わり

- ・ 自ら問い、形にする「主体的な社会的実装」

- ・ 自らの手で、社会は変えられるという確信

次なる展望：中条高校の進化



地方公立高校の新たな**先行事例**を築く

「生き方の姿勢」としてのアントレプレナーシップ
自らの人生を輝かせ、人の喜びに貢献できる人間へ

それが中条高校未来探究の願い

